

213

三月十日(金)

五穀之類の二つ

粟白、或臨境秀

穀類、或、或、或、或

粟是、或、或、或、或

粟類、或、或、或、或

出 鬼斬

文子に在る也

三月十一日(土)

三月三日

師用、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

古、古、古、古、古

216

三月十四日(水)

三月二十二日

軍機は北に退く

和議の情運下

三月二十三(木)

朝より艦載機の

中絶を遂げ一日

地下作戦室に務居

す

三月二十四

午後五時より艦載

機の着陸

八時三十分より

艦砲射撃開始
上陸の算は懐疑

三月二十五日

あさ五時

時至り艦載機

陸軍機は布陣

出撃す

聯合艦隊

艦隊

艦隊

艦隊

三月二十五日

艦隊

艦隊

艦隊

艦隊

三月廿五日(日)
 三月廿五日(日) 陸軍
 大子(三) 砲隊あり
 夕刻より三ヶ所砲隊あり
 林隊隊手着着
 文冠役再現
 是日
 三月廿六日
 赤心隊突撃
 南西方面
 のあり
 あり

三月廿六日(日)
 三月廿六日(日) 陸軍
 赤心隊突撃
 南西方面
 のあり
 あり
 三月廿七日(日)
 三月廿七日(日) 陸軍
 赤心隊突撃
 南西方面
 のあり
 あり
 三月廿八日(日)
 三月廿八日(日) 陸軍
 赤心隊突撃
 南西方面
 のあり
 あり

220

22

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日



三月廿一日

222

扶桑隊実働手

中野艦二隻

一 五上皇機

○三月三十日

吾の乗組の皇機様

をいし出かす

我々の真上皇機様

に於て軒仰御座

の信託と操艦す

とす自らの

船を御守りな

に候し候と仰

三月三十日

我隊は國

を以て

に候し

方三十九

に候し

作命

在徳島

に指

者

固

是

223

三月廿四日
扶桑隊実習

中野艦二隻
一、三上皇機

○三月三十日

予は予行の最良候
よしとせし
我々の真上長沖尾
に尤も軒舫研研研
の作具と操艦之
とす自らの
船を信守司命
に任し候と申す

三月廿五日

女子隊長に因り
原田一宮等
申候し是等
に因り是等

三月十九日
予は予行の最良候
よしとせし
作命等三下命令
在徳島今洋古迄
に指桑依頼す
書本西船之信候
因り左の三件
是等一可

三月廿四日 (金)

1. 上海方面

攻撃

敵艦隊の動き

機動部隊の

動きの報告

2. 九州方面

艦隊の動き

海上部隊の

機動部隊の

三月廿五日 (土)

三月廿五日 (土)

0311 上海方面

敵艦隊の動き

機動部隊の

動きの報告

九州方面

艦隊の動き

海上部隊の

機動部隊の

動きの報告

三月廿六日 (日)

三月廿七日 (月)

三月廿八日 (火)

三月廿九日 (水)

三月三十日 (木)

224

三月廿六日(日)

三連の夜は可成り
三十一丁の夜は伊波
島の上陸
第2と陸佐隊の
作隊基地を打退
すると思ふなり
本隊停泊
の夜は
定母と見ると
我は洋砲
超大型子次官
あり

三月廿七日(月)

夜、時分
新工作隊は
せうの効果あり
本隊は
の改革頭著
改地は
精進隊
船は
夜理しつ
第一の
あり

225

227

三十一日(日)

三十一日(日) 三十一日(日) 島に上陸 作隊基地を打倒 するに足るなり 本隊は敵 隊を退却 させ 完母を退却 させ 我は津島 方面 超大型 潜水艦 あり

本隊は敵隊を退却

本隊は敵隊を退却 させ 津島 方面 超大型 潜水艦 あり

四

第一冊

田中野事の日記

世甲村の日記

大丁

B.C

大丁

以下

徳山

0900 平山以上徳山

1000 徳山

1000 徳山

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

徳山

0900 平山以上徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

1000 徳山

228

明治廿九年

腰巻の賤け者
腰巻の賤け者

田のついでに
田のついでに

自給自足の
自給自足の

軍民一致
軍民一致

民衆の
民衆の

皇國の
皇國の

米穀の
米穀の

天の
天の

天の
天の

天の
天の

天の
天の

明治廿九年

一日掃蕩
一日掃蕩

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

軍民
軍民

271

四月九日(日)

野原 A=B

池田 A=C

Q=15

特設野原作道

斬入野原

今夜より斬入

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

の野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

野原

232

四月十一日(水)

敵艦の位置

Handwritten notes and diagrams in the upper left section of the page, including various symbols and lines.

四月十三日(金)

敵艦の位置

Handwritten notes and diagrams in the lower left section of the page, including various symbols and lines.

233

234

四月十三日(水)

○四月十三日
陸海軍、特攻
は續く、
地と作隊又浮
動し、戦務あり
敵砲隊等、
射しつゝ、馬車
攻勢に固す。
此等、固心
身心、爽快す。

四月十四日(木)

○四月十四日
船周、遊文、
走攻勢、甲上
か、
次、HA、
手、
下、
擲、
官、
○四月
夜、
攻、

522

四月十五日(金)

文句ありし

研究の進捗

本稿より研究

結果を報告

研究の進捗

十以内の回数

の報告あり

本稿より研究

結果を報告

研究の進捗

四月十五日(金)

後方の回数

研究の進捗

本稿より研究

結果を報告

研究の進捗

十以内の回数

の報告あり

本稿より研究

結果を報告

研究の進捗

236

題名七枚目(87)

○ 田上入

才好得用故大浦

流作に百十支

船田ありとりの理也

に之再の女勢力止

施第再の志

結実年同行力

一命令るる室の世

す作勢とて室の世

世のしと何の

軍の

題名七枚目(88)

○ 田上入

才好得用故大浦

流作に百十支

船田ありとりの理也

に之再の女勢力止

施第再の志

結実年同行力

一命令るる室の世

す作勢とて室の世

世のしと何の

軍の

297

四月十九日(水)

母の日記

無事退席し、いよいよ夏
と云うつゝ、三軒敷の
改修と云ふこと
とし、まう一枚に
唯唯と承す。
男の改修
土の改修
自國の改修
百景の改修
三軒敷の改修
改修

四月二十日(木)

子新史

若菜司合の
氣配、まゝの
帰國に、旅
第一等に、月
位、
時、
改修の、
改修、
改修

皇の御成程
 は依りて
 井澤信長
 才助平司合官
 才助の御成程
 正史に傳記あり
 の所之と云ふ
 名渡上陸

皇の御成程
 は依りて
 井澤信長
 才助平司合官
 才助の御成程
 正史に傳記あり
 の所之と云ふ
 名渡上陸

238

轉てすす
十日の間に全軍を討つ
皇國の安危は
是よりありては
船突等、或は
景軍宜し、大
死一途に、
死にまゝに
我カ將士に
死にまゝに
死傷する者
死傷する者

死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに
死にまゝに

297

240

西曆廿五年(癸)

西曆廿六年(甲)

本公夜一甲...
 夜... 模...
 持... 共...
 不... 微...
 午... 有...
 限... 二...
 改... 勢...
 氣... 分...
 世... 一...
 し... 一...
 六... 十...

四月廿七日 (水)

更に是夕三朝飯

四月九日

五以敵機初部隊
と衝突せし我々
梅上在洋隊飛立
部隊の攻撃(機)
左の如く通報あり

四月廿八日 (木)

群 A 二機 一機

二機 一機

三機 一機

四機 一機

五機 一機

敵の陸上機



五月三日(水)

本日傳の女學に決
定候もその旨を
想候思想は是に
尚餘り是を
陸海軍の如く猶
依りて故に其の
艦隊は海軍の
ありては、
平素は艦隊の
至るべき艦隊
四十名強の故に

五月三日(水)

我が海軍の如く
遠く洋上には
其の如くは
中と利便
聯合艦隊
此の如くは
下等艦隊
白
一、海軍の如く
二、海軍の如く
三、海軍の如く
四、海軍の如く
五、海軍の如く
六、海軍の如く
七、海軍の如く
八、海軍の如く
九、海軍の如く
十、海軍の如く

247

五月五日(金)

船隻力ヲ極大ニ
増進スルヲ以テ
是更作戦ノ準備
進スリ
自國軍
帝國聯合艦隊
ノ中心に成ルベ
キ
従来海軍作戦
船隻作戦ノ中心
加減と異ナリ
モ抑圧作戦に

五月五日(金)

國軍海軍
艦隊力ノ増進
色澤ニシテ
自國軍
其準備道地
艦隊力
作戦に花
は在ル
の準備
軍艦の自給
大なる

245

毎月七日(戌)

義に情を有る国體

使意のありし

因清は早稲にた

は鶴子に柳す

澤聖島上陸

我らと通る路は

和歌山志紀中

八月廿七日(酉)

ト一を死なす

と古事記にあり

既に敗れを被る

此の敗れを被る

此の敗れを被る

此の敗れを被る

此の敗れを被る

287

四書十一

孟子

告子上

牛馬之於人也

猶木石之於人也

然人之所以貴於禽

獸者以其有異於禽

獸者也

此其所以為人也

苟無是心則人與

禽獸無異矣

此其所以為人也

牛馬之於人也

猶木石之於人也

然人之所以貴於禽

獸者以其有異於禽

獸者也

此其所以為人也

苟無是心則人與

禽獸無異矣

此其所以為人也

此其所以為人也

1	31	30	29	28	27	26	25	24	23
2000	1099	795	588	248	199	99	200	750	
10	91	82	73	64	55	46	37	28	19
3700	4700	4600	4500	4400	4300	4200	4100	4000	3900

19	18	17	16	15	14	13	12	11
28000	24000	20000	18000	25000	24000	2490	4200	5000
							4400	3225
							4700	

20

○ 敵軍の

敵軍の全軍は

本島に

台湾

(葉)

山本

軍令

具

と

都

男

あ

敵軍の

本島に

台湾

(葉)

山本

軍令

具

と

都

男

あ

敵

本

島

252

